

～高度グローバル人材育成のための独自カリキュラム～

目標設定の背景

Aims of the global class

- グローバル社会で通用する英語コミュニケーション能力を身につける。
- 分析力やプレゼンテーション力、調査力、課題解決力などの21世紀に必要なグローバルスキルを培う。
- 日本人としての意識をもちながら、グローバル市民としての主体性を育む。

VUCAの時代【変動性-Volatility 不確実性-Uncertainty 複雑性-Complexity 曖昧性-Ambiguity】

Global Issues【環境、人権、貧困、紛争、教育、多様性、災害、食料、医療、貿易、経済、等】

必要な資質・能力【語学力、異文化理解力、主体性・行動力、課題解決力、創造性、協調性、日本人としてのアイデンティティー等】

地球市民として生涯にわたって学習し、平和構築に貢献する人を育てたい!!【独自科目 創設者の思い】

6 Goals **[Inquirer, Thinker, Communicator, Open-minded, Risk-taker, Reflective]**

(国際バカロレア10の学習者像を参考)

英語・イメージ科目	グローバルスタディーズ	教科等
日本の学習指導要領に沿って英語で算数と理科、図工を学び、教科のねらいを達成する。週3回の英語の授業によって4技能の統合的な育成を目指す。GSと中心概念やトピックの横断性をもたせることで学びの質を高める。	地球規模の諸課題に関連するトピックについて探究を行う。IBの「概念学習」の手法で探究サイクルを活用する。課題解決に必要な知識を獲得し、調査力、分析力、批判的思考力、プレゼンテーション力などの21世紀型スキルを身につける。	学級担任による日本語のみの教科とバイリンガル教科によって各教科のねらいを達成する。また日本語の読解力や英語の語彙力を伸ばす。GSと中心概念やトピックの横断性をもたせることで学びの質を高める。 <i>他のクラスと課題を合わせる必要はない</i>

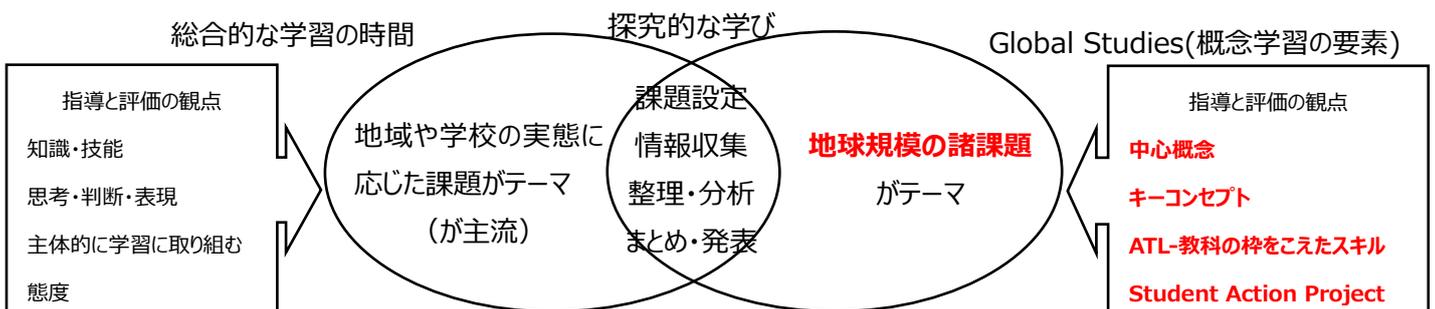
Global Issues

SDGs



Resources in HK

➤ IBの「概念学習」の手法を用いるのはなぜか？なぜ総合的な学習ではないのか？ →以下に図示。



概念学習の強み = 「学び方」を学ぶ、「学習の転移」が見られやすい

3年間のトピックと中心概念

Term	Global Studies Topics	中心概念 Central Ideas	SDGsとの関連
P4 Term1	多様性-いろいろな文化や考え方 Diversity-Diverse Cultures and Values	Diversity makes our world better.	
P4 Term2	限られた資源としての水 Water as a Limited Resource	Water is a limited and precious resource.	
P4 Term3	未知への探検と発見 Exploration and New Discoveries	All humans are natural-born explorers.	N/A
P5 Term1	環境と持続可能社会 Environment and Sustainability	Human activities may affect the survival of living thing.	
P5 Term2	イノベーションテクノロジーとその影響 The Effects of Innovation and Technology	Invention, innovation and technology influence our lives in many ways.	
P5 Term3	メディアが人々に与える影響 The Media and its Influence	Actions are influenced by messages through different media.	
P6 Term1	紛争と平和構築 Conflict and Peace Building	Conflicts are everywhere and are necessary for making improvements.	
P6 Term2	ガバナンスと人々の暮らし Governance and Lives of Citizens	Different systems of governance have varied impacts on the lives of citizens.	
P6 Term3	自由研究 Exhibition	Challenging and questioning various things is necessary to change the world.	

育みたい能力 Approaches to Learning

ATL	GCで育みたい能力
Thinking skills	<ul style="list-style-type: none"> 多角的・多面的思考スキル (事象やアイデアについて分析し評価する) 創造的思考スキル (新しいアイデアを生み出し、新しい視点を考察する) 批判的思考スキル (物事の前提を疑うことで、最適解を導き出す) 転用スキル (知識やスキルを別の内容で活用する) ふりかえり/メタ認知スキル(学びの過程を省察する)
Research skills	<ul style="list-style-type: none"> 課題発見力 (事象について知り、疑問や課題を見出す力) 情報活用能力 (系統立てて計画、情報収集と記録、合成・解釈、評価とやりとり) メディア活用能力 (情報媒体と関わり、アイデアや情報の創造のために活用する) 倫理的なメディア/情報の活用 (技術の社会性や倫理性を理解する。学問的誠実性)
Communication skills	<ul style="list-style-type: none"> 情報を交流させるスキル (聞く力、解釈する力、話す力、プレゼンテーション力) 読み書きするスキル(基礎的読解力・情報を収集したりやりとりしたりするための読む・書く力) ICTスキル (テクノロジーを使って情報を収集、調査、コミュニケーションを図る力)
Social skills	<ul style="list-style-type: none"> 良い対人関係や協働性を発展させるスキル (自制心、失敗を乗り越える、仲間を助ける) 責任を受け入れる、他者を尊重する、グループ内のさまざまな役割を担う。
Self-management skills	<ul style="list-style-type: none"> 計画管理するスキル (効果的な時間とタスク管理) 心理状態を安定させるスキル(マインドフルネス, 忍耐力, 感情のコントロール, 自発性、立ち直る力)

香港小 GS Inquiry Cycle を活用した探究的な学び

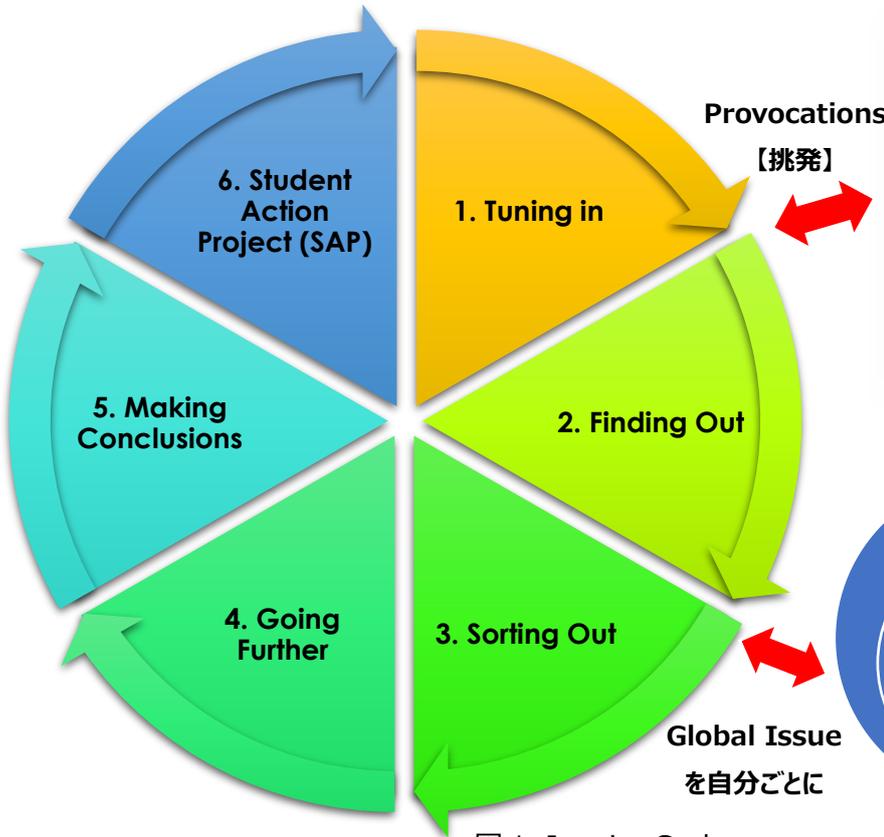


図 1 Inquiry Cycle

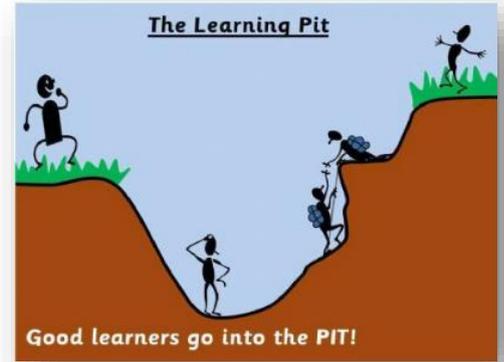


図 2 The Learning Pit

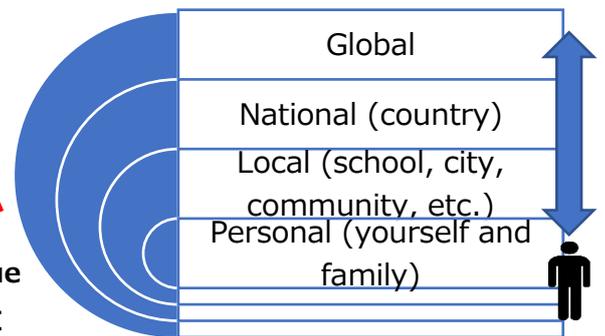


図 3 GS 学習過程のイメージ図

留意点

- ✓ この Cycle は原則であって、マストではない。途中に SAP が入ったり、2 と 3 を行き来したりすることも考えられる。
- ✓ トピックの提示は教員側からでよいが、児童による課題発見や疑問をもとに探究が進んでいくことが理想。
- ✓ どこが教員主導で、どこが児童主体で進むのか目標と実態に合わせ学習計画の中で明確にしておく必要がある。

1. Tuning In : 単元の興味付け 児童がワクワクする場面を創出 主体性、シンキングスキル、リサーチスキル〔評価〕

- いかに関心に興味を持たせられるかが重要。また、いかに「自分ごと」としてとらえさせるか、必要感を感じさせるかが肝。
- そのために、図 3 の Personal に視点に関連したしかけ作りが大切。教師の腕の見せ所。
- 児童の既知事項をもとに図 2 のラーニングピットをイメージし、学びの負荷をかけてあげることによって学ぶ意欲を喚起する。
- きっかけ：社会問題や出来事、実体験
- 導入例：実験、体験、校外学習、→ 対話的な学びによる問いの生成 → 視点をもった校外学習（再）
KWL チャートの活用 → ユニットの大前提となる知識の獲得 → 問いの生成(キーコンセプトを活用)
× Central Idea の読解からのスタートはワクワクしない。

Key Concept 探究を深めるための見方・考え方

- **Form 仕組み**：どのようなものか【見た目、構造、類似、相違点】
- **Function 働き**：どのような働きをするのか【役割、システム、パターン】
- **Causation 要因**：なぜそうなのか【結果、要因、影響】
- **Change 変化**：どのように変わってきたのか【成長、変容、連続性】
- **Connection つながり**：どのようにつながっているのか【関係性、ネットワーク、相互作用】
- **Perspective 視点**：どのような見方があるのか【主観性、偏見、立場】
- **Responsibility 責任**：どのような責任があるのか【権利・義務・価値観】
- **Reflection 振り返り**：すべての活動とセットになり、自分の立ち位置を知る

単元を計画する際に
3つ程度に絞って重
点化して指導する。

2.Finding Out と 3.Sorting Out は行き来しながら概念やトピックに関する知識や考え方を深めていく。

2. Finding Out : 情報収集

リサーチスキル、自己管理スキル

- 「問い」は教師による発問なのか、児童によって生み出された問いなのかによって学ぶ意欲が変わる。
- **目的意識をもった情報収集**。多様な情報収集の方法を経験をさせる。リサーチループの活用。
- G suite を活用し、収集した情報のデジタル化 → 個別のフィードバックにより授業時間を有効活用。
- 情報収集の方法

・インタビュー ・アンケート ・ゲストティーチャー ・実験
・書籍 ・インターネット ・フィールドワーク ・観察 } 情報の記録

学問的誠実性と情報の信頼性の視点

3. Sorting Out : 情報の整理・分析

シンキングスキル、コミュニケーションスキル

- **明確な視点をもとに情報を整理・分析**する。整理・分析した情報は「中心概念/問い」に対してどのような考え/解をもたらすのか？
- 情報を整理・分析 = 思考の整理
・シンキングツールの活用 ・批判的に事象を読み解かせる ・レポートによる整理（形式の有無問わず）
- 整理した情報を元に…
・エッセイ ・数直線ワークシート
- 気づきや振り返りを可視化させることで、自分が何を学んだかを意識化させる。

4. Going Further : 考えをさらに深める

活動によって見取るスキルが変わる

- 「中心概念/問い」に対して自分の立ち位置を知り、**更に知りたいことを追求**する。ラーニングマップの活用。
・問いは他にあった？ ・他の見方はない？ ・十分に情報はそろった？ 等 キーコンセプトの活用。
- 情報が集まった後に、図2のラーニングピットに落とすことも考えられる。**深い学びのためには更なる負荷が必要**。
- 活動例（アクションプロジェクトのための）個人リサーチ/グループリサーチ
多角的な見方を深めるロールプレイ、ディスカッション。
多角的・多面的な思考をさせるディベート

5. Making Conclusions : 自分なりの解を導き出す

シンキングスキル

- 自分は「中心概念/問い」に対してどのような考え/解に至ったのか。
- 6のSAPに向けたアクションと自分の意見をまとめる。
- **Summative Assessment task** : Actionの目的と活動内容は？
(最終評価課題) ゴールや評価基準の設定 (Rubric)

6. Student Action Project : 探究の成果を行動に移す

セルフマネジメントスキル、ソーシャルスキル、コミュニケーションスキル

- **Summative Assessment** (エッセイ、新聞、ビデオ) 必ず個々の活動も入れて、評価する。
- 個人/グループ/クラスプロジェクト (劇、ビデオ作り、作品作り)
- 自発的な行動に (クラス外での行動が理想)
- 学期のまとめとしてこれまで学んだことや自分の考えが変わったことなど、思考の変化を再認識させる
- 6 goals を適宜振り返らせることで、自分の成長を認識させる。

※GSの中で一般化されたデザインをここに載せたが、各学年の実践の具体案については別紙参照。